年間授業計画　様式例

高等学校　令和８年度（２学年用）　教科　　国語　　科目　文学国語

教　科：　国語　　科　目：　文学国語　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　１学年　　組～　　組

教科担当者：

使用教科書：（『文学国語』（第一学習社）　　）

教科　国語　　の目標：

【知識及び技能】本文に用いられている語彙・漢字の正しい使い方を身に付ける。韻文や散文の表現効果や筆者がどのような認識や思考を述べようとしているか理解する。

【思考力、判断力、表現力等】本文のテーマについて、自分の考えと、自分を取り巻く社会・生活とを関連させながら思考したり表現したりする。

【学びに向かう力、人間性等】教材の内容に関心をもち、本文のテーマに関連した問題について探究しようとする。

科目　文学国語　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的な語句や漢字、文学を表現する語彙、構成、展開、場面設定、心情表現、情景描写、人物像の捉え方や表現技法などを理解する。	文学の読み方を踏まえ、作品世界の背景を知ったうえで内容を読解したり鑑賞したりして、自分の意見を表現する。	文学作品の価値観等を考えることにより、今に生きることについてつなげていく。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	領域 書	領域 読	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	A 単元『山月記』 【知識及び技能】当時の時代背景や作品の底本を踏まえ、文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解する。 【思考力、判断力、表現力】語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。 【学びに向かう力、人間性等】教材の内容に関心をもち、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。	・基本的な語句や漢字 ・物語の内容や構成、展開、場面設定、心情表現、情景描写、人物像の捉え方 ・想像や心情を豊かにする働きがある語句、情景の豊かさや心情の機微を示す語句や表現技法 ・文体の特徴や効果を踏まえた読み方 ・教科書・プリント ・１人１台端末等	○	○	○	『山月記』 【知】文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、使う力を身に付けようとしている。 【思】語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈しようとしている。 【態】教材の内容に関心をもち、解釈の多様性について探究しようとしている。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
	B 単元『夏の花』 【知識及び技能】 戦争、原爆投下に到る歴史的事実を知り、文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法の理解を深める。 【思考力、判断力、表現力】 内容や展開・構成・場面設定や描写のしかた。また作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学び、作品の解釈を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 内容を解釈し作品を味わい、戦争に対する自分の考えを確認する。	・基本的な語句や漢字 ・物語の内容や構成、展開、場面設定、心情表現、情景描写、人物像の捉え方 ・想像や心情を豊かにする働きがある語句、情景の豊かさや心情の機微を示す語句や表現技法 ・文体の特徴や効果を踏まえた読み方 ・教科書・プリント ・１人１台端末等	○	○	○	『夏の花』 【知】戦争、原爆投下に到る歴史的事実を知り、文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法の理解を深めようとしている。 【思】内容や展開・構成・場面設定や描写のしかた。また作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学び、作品の解釈を深めようとしている。 【態】内容を解釈し作品を味わい、戦争に対する自分の考えを確認しようとしている。	○	○	○	10
	C 単元「わたしが一番きれいだったとき」 【知識及び技能】 文学的な文章、詩情における文体の特徴や修辞などの表現の技法を理解し、我が国の言語文化について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力】 内容や展開・構成・場面設定や描写のしかた。また作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学び、作品の解釈を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 内容を解釈する方法を学ぶとともに、詩の面白さを味わう。	・基本的な語句や漢字 ・想像や心情を豊かにする働きがある語句、情景の豊かさや心情の機微を示す語句や表現技法 ・作品が成立した背景や他の作品などの関係を踏まえた読み方 ・教科書・プリント ・１人１台端末等	○	○	○	「わたしが一番きれいだったとき」 【知】人間、社会、戦争、時代などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする言葉の効用について理解を深めようとしている。 【思】設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。 【態】教材の内容に関心をもち、探究しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査				○		○	○		1
2学期	D 単元『こころ』 【知識及び技能】 近代という時代や近代人が抱えた課題を踏まえたうえで、文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現技法について、体系的に理解を深める。 【思考力、判断力、表現力】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 教材の内容に関心をもち、自分のものの見方、感じ方が深まるような態度を養う。	・基本的な語句や漢字 ・物語の内容や構成、展開、場面設定、心情表現、情景描写、人物像の捉え方 ・想像や心情を豊かにする働きがある語句、情景の豊かさや心情の機微を示す語句や表現技法 ・作品が成立した背景や他の作品などの関係を踏まえた読み方 ・教科書・プリント ・１人１台端末等	○	○	○	『こころ』 【知】文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現技法について、体系的に理解し、使おうとしている。情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。 【思】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めようとしている。 【態】教材の内容に関心をもち、自分のものの見方、感じ方が深まるようにしている。	○	○	○	20
	E 単元「永訣の朝」 【知識及び技能】 文学的な文章、詩情における文体の特徴や修辞などの表現の技法を理解し、我が国の言語文化について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力】 内容や展開・構成・場面設定や描写のしかた。また作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学び、作品の解釈を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。	・基本的な語句や漢字 ・想像や心情を豊かにする働きがある語句、情景の豊かさや心情の機微を示す語句や表現技法 ・作品が成立した背景や他の作品などの関係を踏まえた読み方 ・教科書・プリント ・１人１台端末等	○	○	○	「永訣の朝」 【知】文学的な文章、詩情における文体の特徴や修辞などの表現の技法を理解し、我が国の言語文化について理解を深めようとしている。 【思】内容や展開・構成・場面設定や描写のしかた。また作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学び、作品の解釈を深めようとしている。 【態】内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		○	○		1
3学期	F 単元「花のいざない」 【知識及び技能】 本文に用いられている語彙・漢字の正しい使い方を身に付け、筆者がどのような認識や思考を述べようとしているか理解する。 【思考力、判断力、表現力】 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然、芸術などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。 【学びに向かう力、人間性等】 教材の内容に関心をもち、芸術について探究しようとする態度を養う。	・基本的な語句や漢字 ・文章の構成や展開、表現の工夫 ・情報や抽象など随想の基本的な読み方 ・文体の特徴や効果を踏まえた読み方 ・教科書・プリント ・１人１台端末等	○	○	○	「花のいざない」 【知】本文に用いられている語彙・漢字の正しい使い方を身に付け、筆者がどのような認識や思考を述べようとしているか理解しようとしている。 【思】作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然、芸術などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。 【態】教材の内容に関心をもち、芸術について探究しようとしている				14
	『檸檬』 【知識及び技能】 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現技法について、体系的に理解する。情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 教材の内容に関心をもち、自分のものの見方、感じ方が深まるよう探究する態度を養う。	・基本的な語句や漢字 ・想像や心情を豊かにする働きがある語句、情景の豊かさや心情の機微を示す語句や表現技法 ・物語の内容や構成、展開、場面設定、心情表現、情景描写、人物像の捉え方 ・作品が成立した背景や他の作品などの関係を踏まえた読み方 ・教科書・プリント ・１人１台端末等	○	○	○	『檸檬』 【知】文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現技法について、体系的に理解し、使おうとしている。情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。 【思】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めようとしている。 【態】教材の内容に関心をもち、自分のものの見方、感じ方が深まるよう探究しようとしている。	○	○	○	11
										合計
										78